

## < 観点別評価と定期考査による評定への総括について >

各単元においては、4つの観点から身に付けさせたい学力を設定し、評価することが大前提である。4つの観点からバランスよく評価するということは、授業においても4つの観点から学力をとらえ、指導していかなければならない。これらの観点別評価と授業改善のためには、定期考査の改善が求められる。すなわち、定期考査においても4つの観点からバランスよく問題作成する必要がある。

第1に、小単元の指導と評価の計画においては、4つの観点からバランスよく評価規準を計画し、評価することである。つまり、小単元のなかで4つの観点から身に付けさせたい学力をとらえ、指導と評価の計画を立てることである。そして、授業では、小単元の指導と評価の計画に基づいて観点別評価をおこなう。

第2に、定期考査においては、4つの観点からバランスよく問題を作成することである。定期考査の問題を4つの観点から作成することは、授業における観点別評価の延長線上に定期考査を計画することであり、4つの観点から評価し、授業改善をおこなっていくための必要条件である。

授業における観点別評価とあわせて、4つの観点から定期考査の問題を作成することによって、関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解、の4つの観点による5段階評定をおこなうことができる。したがって、4つの観点による評価とそれとともなう授業改善に対応するためには、授業における観点別評価のみならず、4つの観点による定期考査の改善が必要である。

別紙【観点別評価と定期考査による評定への総括例】では、観点別評価の点数化された合計点と定期考査の点数との総計をもとに、5段階評定をおこなっている。

まず、単元の観点別評価の点数化においては、小単元1と小単元2のそれぞれについて、小単元ごとに4つの観点から指導と評価の計画を立てたうえで、授業における観点別評価ABCを、Aを3、Bを2、Cを1に変換し、単元の観点別評価の合計点としている。

つぎに、定期考査においては、4つの観点に基づいて、観点別に25%ずつ問題を作成している。なお、観点別の問題作成については、別紙【観点別評価を考慮した定期考査の問題作成例】のように、単元および小単元の評価規準をもとにした4つの観点による問題を作成しなければならない。

そして、別紙【観点別評価と定期考査による評定への総括例】では、単元の観点別評価の点数化された合計点と定期考査の点数との総計を、段階値にしたがって5段階評定としている。

【 観点別評価と定期考査による評定への総括例 】

番	氏名	単元の観点別評価														計 / 48	定期考査				計 / 100	総計 / 148	評定				
		小単元 1				小単元 2											【関】 / 25	【思】 / 25	【技】 / 25	【知】 / 25							
		1	2	1	2	1	2	3	4	5	6																
1		【関】A	【技】B	【思】B	【知】B	【関】A	【知】A	【技】A	【知】B	【関】A	【思】A	【関】A	【技】B	【思】A	【知】B	A	B	A	B	41	12	20	18	20	70	111	4
2		【関】A	【技】A	【思】A	【知】B	【関】B	【知】B	【技】B	【知】B	【関】B	【思】B	【関】A	【技】A	【思】B	【知】B	A	B	A	B	38	10	18	14	16	58	96	3
3		【関】A	【技】A	【思】A	【知】A	【関】A	【知】A	【技】A	【知】A	【関】A	【思】B	【関】A	【技】B	【思】A	【知】A	A	A	A	A	46	20	20	25	25	90	136	5
4		【関】A	【技】B	【思】B	【知】C	【関】A	【知】B	【技】C	【知】C	【関】B	【思】B	【関】B	【技】B	【思】B	【知】B	B	B	B	B	31	10	8	8	8	34	65	2
5		【関】A	【技】A	【思】A	【知】A	【関】B	【知】B	【技】B	【知】B	【関】A	【思】A	【関】A	【技】A	【思】A	【知】A	A	A	A	A	44	20	20	22	20	82	126	5
==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==	==

↑

配点は

A	3
B	2
C	1

とした場合

↑

観点別評価 + 定期考査

↑

評定は総計をもとに

148 - 124	5
123 - 99	4
98 - 73	3
72 - 47	2
46 - 0	1

とした場合